

保育園が足りない!



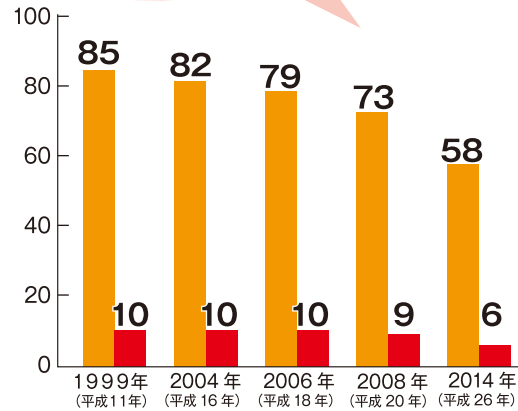
認可保育園の増設を強く求める赤田議員

待機児童問題は
大きな社会問題。
解消どころか、
一層深刻さを増しています。

垂水区の公立保育所は民営化によって減少しています。公立保育所の「再編」は、待機児童の解消に逆行します。

舞多間に保育園を

2月22日の文教こども委員会で赤田議員は、児童数が急増している舞多間地区での認可保育園の設置を求めました。こども家庭局は「随時、状況の変化も考慮しながら計画を進めていく必要がある」などと答弁しました。



おしらせ

保育料が軽減されます

保育料は家計にとって重い負担です。今年度から多子世帯については、幼稚園や保育所の保育料が軽減されます(ただし所得制限があります)。さらなる改善を強く要求していきます。

おしらせ 今年度は市内の3校で

日本共産党議員団は市内の各学校を訪ね、仮設校舎の解消と、新しい校舎の建設を要求してきました。

2014年秋に赤田議員が訪ねた名谷小学校は、校庭のスペースが改善されます。



プレハブ校舎

青陽西養護学校、垂水養護学校は移転後どうなるの?

青陽西養護学校(狩口台3丁目)と垂水養護学校(旭が丘2丁目)は、来年4月に西区・井吹台西町に統合移転することに。しかし両校とも、とても質の高い教育を提供してきました。移転後のことを心配する声も出ています。障がいをもつ子どもたちのために、近くに学校が必要です。身勝手な跡地売却は許せません。



これ以上、公立幼稚園を減らさないで

垂水区では2つの幼稚園(奥の池 多間ひまわり)が

神戸市は2020年度までに13の公立幼稚園を閉園する条例案を提出し、市議会で可決されました。垂水区では奥の池幼稚園(狩口台3丁目)と多間ひまわり幼稚園(学が丘4丁目)が対象です。数万筆以上にもなる市民からの反対署名を全く無視した暴挙です。

地域の核としての役割を果たしてきた公立幼稚園

「子育ての悩みを同じ幼稚園に通う母親同士のつながりで解決できます」「公立幼稚園に魅力を感じて引っ越してきました」…幼児期の体験はこどもの人生の土台となります。公立幼稚園は子育ての願いに多分にこたえ、「地域に求められる存在」になっていることが議会での口頭陳述で明らかになりました。



奥の池幼稚園

保護者・住民との対話を避けてきた市長と教育長

「私たちの“想い”を、“声”を聴いて頂けますよう、どうか宜しくお願い致します」。久元市長と雪村教育長は、保護者や住民のみなさんからの「思いを直接伝えたい」との申し入れにも応じませんでした。当局も条例案に賛成した議員も、住民に理解が得られていないことを認めています。それぞれの地域でかけがえのない役割を果たしてきた2つの幼稚園。住民からの意見や要望を無視して一方的に進めていいのでしょうか。今後も閉園の撤回を強く求めていきます。



多間ひまわり幼稚園

市営住宅の大幅な削減に反対です。

神戸市は老朽化・建て替えなどを口実に、2020(平成32)年度までに市営住宅を7000戸削減する計画です。市営住宅への入居がますます困難になるとんでもない計画です。

学が丘6・7丁目の東多間台住宅では、建て替えを口実に厚生年金住宅全棟と市営住宅の一部を含む約800戸を、425戸に半減させる計画です。設計も建築も民間業者にまかせ、コストを削減するPFI方式で整備します。



市営住宅

安心して住み続けたいくなる垂水区に

